

平成21年7月21日

短説会員 各位

「短説」休刊のお知らせ

去る7月19日、東京座会があり、芦原が事故後はじめて出席しました。

出席までは、まだ「短説」を発行し続ける気持でありましたが、会場へ足を運んでいる間に困難さが身に滲みてわかってまいりました。

まず事故後、早足で歩けません。自分の判断力にも自信がなくなっていました。

そうしたもろもろのことを考え、これを機に「短説」の発行業務を休み、まったく新たな構想で新体制に入ることに決心いたしました。

まずこれまでの経過をお知らせします。実は、先月6月21日東京座会の帰途、私はひどく疲れていたのでしょうか。自分でも腑に落ちない事故にまきこまれ怪我をしていました。持病の前立腺の数値が上がったことの治療も始めたばかりでした。疲れていたか、とにかくぼんやりしていたようです。柏駅のホームを歩いていて、通過した電車に接触したというのです。私自身は、事故に気付いていませんでした。無意識のまま救急車で大学病院に運ばれました。病院で、頭に生じた傷を4針縫われ、その痛さにさすがに自分が陥っている状態に気付きました。だがまだ自分の状態を承知してはいませんでした。夢うつつの状態でありました。

担当医師が書いてくれた「病状説明」が、もっとも信頼出来るものと思われまますので、それをコピーし、ご覧いただくことにします。

「6/21夜、飲酒して酩酊状態（ふらついた状態）で柏駅ホームで電車（時速10～15km）と接触、救急車で搬送されました。後頭部に創があり、来院時会話が可能ですが、自分が今どこにいるのか、現在何月何日か等が判らず、事故及び救急車に乗っていた間の前後の記憶はありませんでした。徐々に意識ははっきりしましたが、事故前後の記憶は飛んだ状態です。頭部、頸部、胸、腹のCTを撮りましたが、今の所大きな異常はみられませんでした。頸部捻挫は強く現れますのでカラーを装着します。入院、経過観察して、必要に応じ再度CT等精密検査をします。」（土田茂樹医師・東京慈恵大学附属病院）。これが全文です。

病院関係者、そして短説の会の皆さまにご迷惑をお掛けしました。お詫び申します。

今後は芦原の健康状態を考え、皆さまの作品を印刷物として制作することは中止し、インターネットのホームページ等で作品を読めるように工夫しようと東京座会の考えをまとめました。皆さまのご協力をお願いします。追って細かいことはお知らせします。取りあえず急ぎお知らせまで…。なお近年芦原の健康状態を考え、「短説」はすべて前金で印刷をしておりました。これが、やはり幸いだったかと思えます。ひとこと付け加えておきます。

敬 具



芦原 修二

休刊すること決めました。

いろいろありがとうございました。